

第42回 日本看護学会抄録集

看護総合

と き：2011年9月8日(木)・9日(金)

と ころ：シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテル

学術集会会長：松永 敏子（社団法人 千葉県看護協会）

公益社団法人 日本看護協会

第4会場 第19群 105

関節鏡下肩腱板断裂手術後患者のシャワー浴用装具の作成 ～安全・安楽なシャワー浴装具～

キーワード：肩腱板手術 シャワー浴用装具 安全・安楽

大阪警察病院 ○岡田麻矢 奥田実香 片桐安由未 篠原マツエ 土井千春

はじめに

肩腱板断裂術後の患者は、手術翌日より防水テープを貼付しシャワー浴可能となる。シャワー浴時も危険肢位を避ける為に、外転位の保持が必要で、採血台を使用していた。しかし、肢位固定が不安定で患者からも不安の声があった。その為、市販の装具を使用した為、使用感が悪く衛生面にも問題があったことから、施設課の協力を得て自作のシャワー浴用装具を考案した。試作と改良を経て、患者の安心感が得られ、看護師の介助のしやすさが向上し、安楽なシャワー浴用装具の作成に成功したことからここに報告する。

I 目的

患者の安全面に配慮したシャワー浴用装具の開発を行い、不安を軽減し、危険肢位をとることなくシャワー浴を行うことができる。

II 研究方法

1. 対象：肩腱板断裂手術患者、医師、看護師
2. 方法：肩腱板断裂手術患者、医師、看護師の意見を事前に調査し、施設課へシャワー浴用装具作成を依頼。試作装具使用後に患者へのインタビュー方式による調査、看護師へ記述方式によるアンケートを実施し改良を重ね、装具完成
3. 調査期間：H22年3月～9月中旬

III 倫理的配慮

研究対象者には研究の趣旨、自由意志参加、参加されない場合でも不利益は生じないことを口頭にて説明し同意を得た。また、施設内の倫理委員会で承認を得て本研究をおこなった。

IV 結果

関節鏡下肩腱板断裂手術の増加に伴い、看護師の学習・技術向上、シャワー浴指導が急務となった。危険肢位を避けシャワー浴を実施するには看護師2人を要す場合もあり、介助を全患者に行うには看護師数が少なく難しい。そこで、装具委託業者にシャワー浴用装具の相談を行うと市販装具を勧められた。しかし、患者の年齢や体格、理解度によって肢位固定が難しく、衛生面にも問題があった為、病院の施設課に協力を依頼し、装具を作成することとなった。

1つ目の装具（市販装具の使用）

委託業者の装具を借用し試験的に使用した。この装具は大きさ・重みがあり肩への負担が大きく、またベルト部分への圧迫が強く発赤の原因となった。ベルトの素材は布製であり、一度使用すると湿潤するため次の使用者は不快感を訴えた。

2つ目の装具（施設課と協力し試作装具の作成）

医師の意見と、市販装具使用後の患者、看護師の意見から

装具の軽量化を図り、円形の筒にビニール製のカバーを巻き、ボタンで留めるという安価な装具を作成した。ベルト素材をビニール製とすることで、患者毎に水気をふき取ることが可能となり不快感の軽減が図れた。しかし、患者からは装具の長さが短い、持つところが欲しい、後ろにずれそうで怖いとの意見や、看護師からはカバーのボタンが留め辛い、凸凹があるため清拭消毒がやりにくいとの意見があった。

3つ目の装具（改良装具：図1、2）

上記意見をもとに

- ①耐水性があり、軽量かつクッション性に優れている
- ②水のふき取り、乾燥、分解などの取り扱いが容易
- ③アルコール、塩素系洗剤の使用可能により衛生面に配慮
- ④外転角度の調節が可能
- ⑤肢位の固定、安定が向上

という特徴の装具を作成

患者からは、固定ベルトが上



腕・手関節部の2つあること 図1（分解）図2（装着）で腕全体が固定される、装具が長くて安定感があるとの意見、看護師からも安心して介助ができるとの声が聞かれた。また凹凸をなくしたことで、使用後の洗浄・消毒が簡易になった。

V 考察

肩腱板手術患者は再断裂防止のため術後外転保持が必要となる。シャワー浴時は外転装具を外すため患者の恐怖心は強く、採血台に上肢を置いているだけの状態の為外転保持が難しく不安定となっていた。その為看護師も常時付き添い介助が必要であった。シャワー浴用装具を作成したことにより、外転位の保持が可能となり、患者が肩関節外転装具装着時と同様の安心感を持つことができるようになった。外転保持の安定性が確保できたことで、看護師が常時付き添うことが不要となり、軽介助でのシャワー浴が可能であり、患者自身のシャワー浴自立にもつながった。パーツを分解することもでき、患者毎の洗浄・消毒・乾燥が可能になり衛生面に配慮することができた。また、軽量化・サイズを縮小することで保管も便利になり、患者も使用しやすいものとなった。ベルトの長さを調節することで、その患者に合った外転角度の調整が可能となった。

VII 結論

シャワー浴用装具を作成したことで、外転位の保持・安定性が向上し、患者のシャワーに対する恐怖心を取り除くことに繋がった。看護師も統一した方法で安全・安心できるシャワー浴の提供が可能となった。

関節鏡下肩腱板断裂手術後
患者のシャワー浴用装具の作成
～安全・安楽なシャワー浴装具～

大阪警察病院 看護部
岡田麻矢 奥田実香 片桐安由未
篠原マツエ 土井千春



第三段階(改良装具) 図3(分解)
図4(装着)

特徴

- ①耐水性があり軽量
 - ②取り扱いが容易
 - ③洗剤使用可で衛生面に配慮
 - ④外転角度の調節が可能
 - ⑤肢位の固定・安定性が向上
- 上記条件の装具が完成。

第一段階(市販装具の使用)

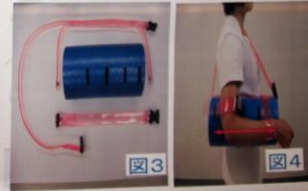
委託業者の装具を借用し試行

- ・大きさ・重量があり
 - 健側肩への負担大
 - ・ベルト部分の圧迫による発赤
 - ・使用者の不快感あり
- (布製のベルト)

第二段階(試作装具の作成)

医師・肩腱板断裂手術後患者
看護師の意見を調査し作成

- 図1 図2
軽量化、不快感の軽減に成功
- しかし
- ・長さが短くて怖い(不安定感)
 - ・ボタンが止め辛い、洗にくい



患者の意見

- ・固定ベルトが上腕・手関節部の2つあることと、装具が長くなり安定感が得られた

看護師の意見

- ・安心して介助ができる
- ・使用後の洗浄・消毒が簡易になった

考察 肩腱板手術患者は再断裂防止のため術後外転保持が必要

- ・シャワー浴時に外転装具を外す
→患者の恐怖心は強く、外転保持が難しいため不安定となる
(採血台に上肢を置いているだけの状態)
- ・外転位保持のため看護師は、常時付き添い介助をしている(ケア量の増加)

シャワー浴用装具を作成

外転位の保持が可能

- ・患者が肩関節外転装具装着時と同様の安心感を持つことができる
- ・軽量化・サイズの縮小による患者の使用感の向上
- ・ベルトの長さを調節でき、患者に合った外転角度の調整が可能

看護師が常時付き添うことが不要

- ・患者自身のシャワー浴自立部分が増え、軽介助でのシャワー浴が可能

衛生面・管理方法への配慮

- ・パーツ分解ができ、患者毎の洗浄・消毒・乾燥が可能
- ・軽量化・サイズを縮小することで保管も便利になった。

結論

- ・シャワー浴用装具を作成したことで、外転位の保持・安定性が向上した
- ・患者のシャワーに対する恐怖心を取り除くことに繋がった
- ・統一した方法で安全・安心できるシャワー浴の提供が可能となった

引用文献

- ・整形外科看護2005秋季増刊
- ・整形外科看護2007vol.12no.3
- ・装具学 第3版

人物の写真を使用していますが、モデルとなった当事者には承諾を得て使用させていただきました。

開発したシャワー用装具は
実用新案を取得し
三田理化工業株式会社と
商品化を目指し調整中である